

Y10c

## 美術館の「宇宙をみる眼—アートと天文学のコラボレーション」企画に於けるアーティストインレジデンス in 国立天文台野辺山

鈴木幸野(志賀高原ロマン美術館)、大西浩次(長野高専)、衣笠健三、西岡真木子、井出秀美、内藤誠一郎、斎藤正雄、ほか国立天文台野辺山スタッフ(国立天文台)

山ノ内町立志賀高原ロマン美術館では、2015年度夏季企画展「宇宙をみる眼—アートと天文学のコラボレーション」のイベントとして、自然科学研究機構国立天文台野辺山宇宙電波観測所(以下、「国立天文台野辺山」)の協力のもと、長野県ゆかりの若手アーティストを対象にした「アーティスト・イン・レジデンス in 国立天文台野辺山(以下、AIR)」を、2015年5月25-28日に実施した。国立天文台でのアーティスト・イン・レジデンスは国内の天文研究機関として、初めての試みであった。

今回、AIRの公募に応募いただいた長野県ゆかりの若手アーティストから、青島左門(長野県大町市)、千田泰広(長野県安曇野市)、前沢知子(東京都世田谷区)、松本恭吾(東京都台東区)、山極満博(長野県坂城町)の5人が参加した。参加アーティストの皆さんは、国立天文台野辺山に実際に滞在し、プログラムを通じて天文学の最先端に触れることができた。

本発表では、この滞在前の天文学への印象や、滞在中の印象や滞在中に得たインスピレーションが作品となってゆく過程での宇宙観の変化などを、参加アーティストへのアンケートやインタビューから分析して紹介する。さらに、出来上がった作品などを通して、「アートと天文学」という一見、まったく違う分野がどのように出会い、どのように結びつくのか、その相互理解の現場と作品の生まれる過程を、評価し、今後のAIR活動への布石としたい。